

2025 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

在宅栄養ケアを担う管理栄養士の人材育成プログラムの開発

■主任研究者 塚原丘美

■共同研究者 奥村圭子

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【緒言】在宅医療や要介護者に対し管理栄養士の訪問栄養指導件数は他職種に比べ極めて少ない。また、予防事業における管理栄養士のニーズも高い。しかしながら在宅や地域で活動できる管理栄養士が不足していると言われている。

【目的】在宅・地域における管理栄養士の実践に必要なスキルを育成する方法を検討するために、栄養ケアプロセス（以下、NCP）のスキル評価に基づいた育成プログラムを実施したので報告する。

【方法】対象は診療所・歯科診療所・病院・福祉施設・行政に所属する管理栄養士 29 名とした。育成プログラムは①1 回/月のオンライン講義、②①のオンライン講義＋個別指導の 2 コース設定し自由を選択し受講した。受講前に在宅医療に関する症例テストを実施し、NCP の 7 項目（病態把握、意向把握、栄養アセスメント、課題抽出、PES 記述、支援計画立案、多職種連携）の自己評価と指導者評価を行った。統計解析は、IBM SPSS ver.29 で連続変数を Mann-Whitney の U 検定、名義変数を Fisher の正確確率検定を用いて有意水準 5% 未満とした。

【結果】事前テスト実施者の内訳は、未受講群 6 名、①受講群 10 名、②受講群 13 名であった。参加者特性の中央値は年齢 33 歳、管理栄養士経験年数は 6 年であった。訪問栄養経験者は未受講群 1 名（17%）、①受講群 5 名（50%）、②受講群 6 名（46%）で、管理栄養士経験 6 年以上は未受講群 5 名（83%）、①受講群 5 名（50%）、②受講群 5 名（39%）であった。②群が少なかった。プログラム選択別評価において、②群は他群と比較し自己評価の「課題抽出」スキルが有意に低かった（ $p < 0.05$ ）が指導評価に差はなかった。また、自己と指導者の評価は管理栄養士および訪問栄養の経験がある者ほど、NCP 項目全般のスキル評価が高い傾向にあった。

【結論】②受講群は、管理栄養士の経験年数が少なく、課題抽出スキルの自己評価が低いことが示唆された。本プログラムは、座学で得た知識を実践学習へ応用できるように修正する必要がある。